

区の目標

「住んでよかった、住み続けたい東淀川区」の実現

5つの経営課題

関連する主要なSDGsの
ゴールを付記しました！

1. 自助・共助を担う地域力と、
にぎわいのある元気なまち



- (1) 地域活動協議会による自律的な地域運営の促進…2p
- (2) にぎわいのある元気なまち…3p

2. こども・青少年の健全育成に地域が
一体となって取り組んでいるまち



- (1) こどもとおとながお互いに元気になるまち…4p
- (2) すべてのこどもが「生きる力」を身につける「子育て」、「共育」のまち…5p

3. 福祉と健康に
みんなで取り組むまち



- (1) 共に支え合い共に生きるまち…6p
- (2) いきいきと暮らす健康づくりに取り組むまち…7p

4. 安全・安心のまち



- (1) 防災意識が高いまち…8p
- (2) 防犯意識が高いまち…9p
- (3) 交通安全への意識が高いまち…10p

5. 区民の役に立つ
区役所があるまち



- (1) 区民ニーズを的確に把握し反映する住民参画型の区政運営…11p
- (2) 伝えて、行動につなげる情報発信力の強化…12p
- (3) 快適・迅速・確実な窓口サービス…13p
- (4) 区民の役に立つ区役所を担う職員づくり…14p

めざす成果及び戦略

検討項目

プロセス(過程)指標

具体的取組

単年度
目標

めざす状態

防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態。

アウトカム指標

地活協の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合：令和5年度までに90%以上

戦略

地活協のめざすべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細かな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。

地域活動協議会を中心とした
地域活動への支援

自分の地域に即した支援を受けられていると感じた地域活動協議会の割合：65%以上

地域活動協議会が地域づくりアドバイザーによる支援に満足している割合：55%以上

地域活動協議会を知っている区民の割合：40%以上

各地域の実情に合わせた地域カルテの活用支援

地域課題やニーズに対応した活動の実施に向けた支援

地域担当職員による地域防災力向上に向けた支援

地域活動協議会への補助金の交付

情報発信力の向上を支援

区広報紙、ホームページ、SNS等の媒体や庁内のスペースを活用した広報

76,847千円

めざす成果及び戦略

めざす状態

区の魅力を発掘して地域資源とし、それらを活かしたにぎわいのあるまちづくりを多様な主体が連携して行うことで、世代や地域・区を越えた交流が生まれ、地域づくりに参画する人が増え、まちが元気になっている。

アウトカム指標

東淀川区は様々な魅力を活かし、多様な主体が連携したまちだと感じる区民の割合：
令和3年度末までに40%以上

戦略

地域・企業・大学をはじめとする各種の教育機関・行政等の多様な主体が連携して、まちの素晴らしさを伝えたり、新たなまちの魅力を発見、創造、発信することなどを通じて、区内外の人の交流を促進し、まちへの愛着心を育むとともに日常から協力し合える仕組みを構築し、にぎわいのある元気なまちをめざす。

また、区西部地域を中心としたハード整備の進捗に伴うまちづくりについても、地域における多様な主体と連携・協議しながら進めていく。

魅力あるまちづくり

新たな担い手の発掘支援と
地域・企業・教育機関・行政
の連携による

各種事業の参加者へのアンケートで「地域のまちづくりに関する活動が、地域・企業・教育機関・行政等様々な活動主体の連携によって進められている」と答えた区民の割合：83%以上

新たに地域活動協議会とNPO・企業等とが連携した取り組み：5件

まちの魅力発信

東淀川区の歴史やスポットについて知っている区民の割合：35%以上

西部地域まちづくり

区民による

西部地域のまちづくりに参加した区民へのアンケートで、「当該まちづくりが有効である」または「必要である」と考える割合：70%以上



区民まつりの支援(実行委員会を中心に区民や様々な機関が連携し、地域の魅力発信・世代を問わず楽しめる場)

東淀川みらいEXPOの開催

東淀川区魅力発見プロジェクトの支援

BCP学びの場の開催

大学連携の推進
(大阪経済大学)(大阪成蹊学園)

3,557千円

東淀川区の魅力あるスポット等についてのチラシを作成

区役所内に設置したスポット紹介コーナーで魅力発信(区民の意見を取り入れ内容を充実)

Twitterで「みのりちゃんクイズ」と称しクイズ形式で情報発信

OSAKA 5 GO! WALKを実施

- 円

協議会(部会)を8回開催

重点事業

各地域が主体となったワークショップ等への支援

3,677千円

めざす成果及び戦略

めざす状態

こどもやおとなも含めたあらゆる世代が地域で元気に過ごし、地域で顔見知りが増えて、誰もが自然に声を掛け合えるなど、地域全体で子育てを見守り関わっている。

アウトカム指標

子育てが長期的な視点でとらえられ、地域の多様な団体と行政により様々な施策が実施され、子育て環境が整備されていると感じる区民の割合：
令和2年度末までに65%

戦略

こどもも親も周りから見守り支えられているという安心感を得られるよう、『子育て=保育』といった短期的な視点で捉えるのではなく、親になるための心と体の準備期間である思春期から妊娠、出産、乳幼児、小中学生、青少年、成人となるまで長期的な視点を持ち、あらゆる世代が子育てに関わっていくための切れ目のない施策を進める。

あらゆる世代が子育てに関わっていくための切れ目のない施策の推進

支援を必要とするこどもに合った施策につなげることができる体制の構築

- ①赤ちゃん訪問員からの情報提供により子育てサロン等関係施設を利用したと答えた保護者の割合：50%以上
- ②-1 対象者に支援終了時のアンケートで「育児に自信が持てるようになった割合」：70%以上
- ②-2 助産師相談利用者満足：90%以上
- ③相談対象者のうち、伴走的な支援を行うことで支援機関に繋がった割合：80%以上
- ④子育てサロンのアンケートで出前講座やホームページ上の子育て情報が役立っていると感じる割合：70%以上

- ①こどもサポートネットの取組により支援が必要であることが判明した子育て家庭のうち、適切な関係機関につなげた割合：60%以上
- ②全対象児童に対するスクリーニング実施達成割合：60%

- ① 区内在住の乳児（満1歳未満）を養育している家庭のうち、希望する家庭へ地域訪問員（こんにちは赤ちゃん訪問員など）を派遣
- ②-1 専門的家庭訪問支援事業：1歳まで延長(対象者に毎月訪問)
- ②-2 3か月健診時に授乳等の相談支援24回
- ③ 4・5歳児就学前子育て相談事業
- ④ 子育て情報マップ、子育て情報紙作成
子育て情報を区HPで発信
子育て出前講座等

5,824千円

重点事業

- ①区内全小中学校において実施される、こどもサポートネットにおけるスクリーニング会議の結果を踏まえ、支援が必要な子育て世帯を適切な関係機関につなげる
- ②対象を区内保育施設等に拡げて上記事業を実施

12,065千円

めざす成果及び戦略

めざす状態

すべてのこどもが健康で心豊かに力強く生き抜き、未来を切り拓いていくために必要な「生きる力(自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力)」を、主体的に身につけられるよう、地域における子育て・教育環境が整っている。

また、こどもの「生きる力」をはぐくむ土台となる自尊感情の重要性について、家庭や地域の人々が理解しており、共に学び、育てあう「共育」の取り組みが進み、次の世代へとつながっている。

アウトカム指標

すべてのこどもが「生きる力」を主体的に身につけられる子育て・教育環境が地域において整っていると感じる区民の割合：令和2年度末までに50%

戦略

「生きる力」を身につけるために大切な自尊感情の向上のため、家族や地域とのふれあいや絆を深める機会や、心身ともに健全な成長を促進する取組、成功を実感できる体験づくりなどの施策を推進する。

また、こどももおとなも共に学び育つ環境が地域で構築され、次世代につながるよう、子育て世帯と地域の人々との交流を進める施策を推進する。

「生きる力」を身につけるための施策の推進

- ①-1 ゲストティーチャー授業受講後、内容を理解したと回答した割合：80%以上
- ①-2 鑑賞教育の実施後に、豊かな情緒や感性を育むことに役立ったと回答した学校の割合：87%以上
- ①-3 本事業を活用し、物事を論理的に考える力が向上したとを感じる学校の割合：50%以上

② 受講前より学校の授業が分かるようになったと回答する受講者の割合：50%以上

- ③-1 「子育てに絵本を取り入れるきっかけになると思う」と回答する参加者の割合：60%以上
- ③-2 「事業の取組に参加したことで、子どもと触れ合う時間が増えた」と回答する参加者の割合：60%以上

- ①-1 ゲストティーチャー派遣事業
- ①-2 鑑賞教育事業
- ①-3 プログラミング教育支援事業

② 民間事業者を活用した課外学習事業

③ 絵本の読み聞かせ事業

21,381千円

子育て世帯を含む地域住民の交流促進

① 子ども・青少年の健全育成に関する取組に参加したいと思ったと回答する人の割合：30%以上

② 「学校を活用した地域連携事業を知っている」と回答する区民の割合：40%以上

- ① 青少年育成推進事業
- ② 学校を活用した地域連携事業
 - ・はぐくみネット事業
 - ・生涯学習ルーム事業
 - ・学校体育施設開放事業

13,867千円

分権型教育の推進

① 学校・地域の実情に応じた教育が行われたと感じる「保護者・区民等の参画のための会議」の委員の割合：90%以上

② 区職員からの学校協議会施策に関する説明・情報提供は、学校協議会について理解を深めるのに役立ったと感じる学校協議会委員研修会に参加する委員の割合：80%以上

① 区教育会議
区教育行政連絡会

② 学校協議会への補佐

- 円

めざす成果及び戦略

めざす状態

地域のこどもから高齢者、障がいのある方などの誰もが自分でできることは自分で、みんなで支え合いながら暮らすコミュニティが育成され、不安や困りごとがあればすぐに身近な人や区役所などに相談でき、必要な支援につながる。

アウトカム指標

身近な地域の中で、「声かけ」、「見守り」、「助け合い」、「支え合い」を実感している区民の割合：令和2年度末までに70%

戦略

地域の中での自助・共助・公助の考えの理解と実践、地域の複合的な課題の把握、職員間や関係機関、地域団体とのネットワークを充実させながら、現行の東淀川区地域保健福祉計画の改定作業を行うことで、多様な支援ニーズに対して、より一層、迅速・的確に対応していく。

複合課題世帯への支援

参加者アンケートで「総合的な支援調整の場(つながる場)」が有効と感じる方の割合：90%以上

地域の支援者の方々へのアンケートでつながる場を知っていると答えた方の割合：60%以上

地域における福祉コミュニティづくり支援

配置できている地域の地域福祉コーディネーターが、相談のあったケースに対して、相談件数のうち何らかの専門的支援につなげたり解決できた割合：相談件数の平均70%以上

生活困窮者の自立支援と貧困連鎖の解消

「困サポ」に複数回参加された方へのアンケートで、『「困サポ」に参加することで、顔の見える関係ができ、支援がしやすくなった』と答えた方の割合：60%以上

勉強会に定着しなかった中学生：20%以下

単年度目標

- ・「総合的な支援調整の場(つながる場)」を開催
- ・地域福祉コーディネーター等との連携・情報共有
- ・SV相談を活用
- ・アンケートを実施し、課題を抱える方の発掘、社会資源の創出に向けた検討

- 円

重点事業

- ・各地域に地域福祉コーディネーターを配置し、地域住民の相談への対応、緊急時の一時的な援助、福祉の制度のつなぎを担う
- ・「地域における見守りネットワーク強化事業」や「つながる場」等と連携、地域における福祉コミュニティづくりを推進
- ・第2期東淀川区地域保健福祉計画策定と併行しながら地域住民の地域別保健福祉計画策定の意欲醸成に向けての働きかけ等を実施

10,410千円

生活困窮者の自立支援：困サポと支援会議を各2回以上開催し、関係部署と連携して、地域で孤立した生活困窮者の早期把握と自立のための取組を推進

東淀川区中学生勉強会事業：生活困窮状態にある世帯の中学生等に学習支援(区内2か所で原則週1回ずつ実施)

8,664千円

具体的取組

プロセス(過程)指標

検討項目

いきいきと暮らす
健康づくりに取り組むまち

経営課題3-2

単年度
目標

めざす成果及び戦略

めざす状態

いつまでもいきいきと自分らしく自立した生活をおくるために、区民の健康づくりに対する意識が向上し、生涯を通して健康寿命を延伸するための取り組みが実行されている。

アウトカム指標

自分自身の健康のために、過去1年間で少しでも検診の受診や生活習慣の改善、体力づくりなどに取り組んでいる区民の割合：令和2年度末までに83%以上

戦略

「今をいきいきと過ごせば、将来もいきいきと過ごせる」という意識づけを行い、あらゆる区民が自主的に「栄養・運動・休養」を充実させるための施策を進めるとともに、地域ともつながりながら健康づくりの取り組みを進めていけるよう、担い手づくりや支援に各団体と連携して取り組んでいく。

健康寿命延伸への取り組み
いつまでもいきいきと自分らしく過ごすための

区民アンケートにおいて健康診断(特定検診・人間ドック・がん検診・職場検診など)を受診したと回答する割合：60%以上

いきいき百歳体操の場：50会場
そのうち、わくわく!いきいき百歳体操(新たないきいき百歳体操の内容を取り入れている)の場：20会場

在宅医療・介護連携の推進
高齢者等の

地域で実施される様々な機会を利用して在宅医療等について啓発を実施：17地域

検診受診勧奨：乳幼児健診の受診対象者の保護者に対する検診受診啓発
検診受診機会の拡大：レディースデイの設定、区内小中学校・淡路出張所等での検診の実施、土日の総合がん検診の実施等
受動喫煙・禁煙指導：啓発活動
介護予防活動：
・いきいき百歳体操」等を通じた社会参加への支援、サポーターの育成
・地域の健康講座で、リーフレットなどを活用して新たな開催場所を開拓
・わくわく!いきいき百歳体操：認知症、閉じこもり予防の内容(30分)を追加し再構築
119千円

在宅医療・介護連携推進会議の開催
在宅医療・介護連携実務者会議の開催
在宅医療等のリーフレットの配布による啓発
関係職種研修の実施
様々な機会を利用し在宅医療等について啓発
- 円